

本学駅伝プロジェクトについての研究（第2報）

（第92回箱根駅伝競走予選会のレース分析から）

A Study of the Ekiden Project (Report No.2)

An Analysis of the 92nd Hakone Ekiden Race Qualifying Events

武田 一^{※1}

キーワード： 桜美林大学, 陸上競技部, 箱根駅伝

はじめに

4年目を迎えた本学駅伝プロジェクトは「大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）」ことをミッションとし箱根駅伝へ挑戦している。第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会（2015.10.17）^{注1}の出場校は昭和記念公園で開催されてから最大の49校となった。大きな話題として創部5年目の東京国際大学が4回目の予選会出場で9位（10時間11分41秒）に入り箱根駅伝の出場権を初めて獲得した。今回2回目の出場となる本学の成績は30位であり一昨年、1年生のみで初出場した29位（出場48校）から1つ順位を下げることであった。しかし、今大会は留学生が怪我のため不出場の中、チーム記録（11時間06分06秒）を11分21秒更新（10時間54分45秒）した。予選会通過ラインの10位はまだほど遠く個人の平均タイム差は4分16秒もある。

そして、今回も教職員、OACU（桜美林大学体育文化団体連合会）の有志で応援団が結成され雨天にもかかわらず一般の応援の方を含むと昨年の300名を大きく超える500名以上の方がコースに散らばり応援を行った。加えスタート前後にはチアリーディング部、吹奏楽団が集団応援を行い、それを見る教職員、学生、同窓生、一般の方々と一緒に応援を行い大いに盛り上がりを見せた。このことはスポーツ推進センターのミッション「大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）」が少しずつ定着しつつあると考えられる。また、練習で使用させていただいている尾根緑道（町田市）や淵野辺公園（相模原市）では多くの方から声援をいただいている。特に朝練習時の尾根緑道では本学に近いこともあり数多くの市民の方々から熱い声援をいただきその期待も大きくなっていることが伺われる。

本研究の目的は、2回目の出場となった第92回大会のレース分析を中心に箱根駅伝に出場するための方策を考察し加え駅伝プロジェクトの活動を報告することである。

※1 TAKEDA, Hajime 桜美林大学総合科学系, スポーツ推進センター

なお、個人情報については関東学生陸上競技連盟、陸上競技関係掲載紙などにより一般に公開されている情報を使用し、本文に掲載されている研究対象者には、研究の内容及び方法を説明し、理解を求めたうえ、個人情報等が掲載される旨、同意を得て協力していただいている。

注1) 第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会（通称、箱根駅伝予選会）は、陸上自衛隊立川駐屯地の滑走路をスタートし立川市街をとおり国営昭和記念公園をゴールとする20kmのロードレースである。本大会（箱根駅伝）への出場は上位10名の合計タイムが少ない10位以内の大学である。選手の出場資格は平成26年1月1日より平成27年9月31日までに5000mを16分30秒以内もしくは10000mを34分以内の公認記録をトラックで有する者がエントリーできる。エントリーは10名以上14名以下とし出場人数は10名以上12名以下である。

【箱根駅伝予選会の一般的なレースプラン】

箱根駅伝予選会は20kmのレースにおいて上位10名の個人の成績を換算したチーム成績により争われるため、作戦としては以下のような単独走と集団走を組み合わせで行うのが一般的である。①エース級の力のある選手は単独走にて他大学と競り合いタイムを短縮する。②それ以外の選手はタイム設定した集団走を15km付近まで行いその後残りの力を振り絞ってタイムを短縮する。近年、数分の差で順位が変わるハイレベルな大会になったため、エース級の選手の存在に加えてチーム内の下位の選手（7～10番目）の走りが大きく左右する。上位の選手が好調でタイムを縮めても30秒から1分の間であるが、昭和記念公園の起伏のあるコースにおいては下位の選手が失速するとラスト5kmで1分以上ロスしてしまう。集団走の利点はペースの安定と仲間と走れる安心感、励ましあいながら走れる集団心理による失速率^{注2)}の低下があげられる。

注2) 一般的な長距離走のレース展開としてはレース序盤に最も早い区間がありその後ペースを維持ないしダウンしラストスパートをしてゴールするのが一般的である。失速率とはスタートから5km(A)までと15km～20kmのゴール直前の区間タイム(5km:B)を比較したものである。Aを基準として何%増加したかを失速率とした。公式は $(B-A)/A \times 100$ である。この失速率が低いほどレースをコントロールし自分の力を発揮できたという指標の一つとなる。また、失速率が高い選手は前半のオーバーペース、体調不良、練習不足などが原因で後半著しくペースダウンしてしまう。

第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

【気象条件】

スタート時（9時35分）の天候は雨、気温15℃、湿度65%、無風。スタート後、雨がやみ曇りとなり気温の上昇が1℃程度という20kmを走るのには好条件であった。

【本学の結果】

本学は30位と目標の19位以内には大きく届かなかった(表1)。タイムは10時間54分45秒

で初出場した前回から11分21秒更新の桜美林大学新記録であった。今回、留学生のラザラス・モタンヤ（健福2年）が怪我のため欠場した中でのタイムであった。もしも留学生が昨年同様のタイムで走っていれば25位以内の可能性もあった。

予選会を通過した上武大学（10位）とのタイム差は42分41秒で一人当たり4分16秒の差がある。距離にして一人当たり約1.5km差となる。前回の予選通過校（創価大学）とのタイム差は52分03秒であったため9分22秒記録を縮めた。

本学選手の個人成績は表2のとおりである。自己記録を更新した選手は12人中10名であった。

表1 第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会チーム成績一覧（2015.10.17）

順位	チーム名	最終総合タイム	順位	チーム名	最終総合タイム
1	日本大学	10時間06分00秒	31	慶應義塾大学	10時間58分39秒
2	帝京大学	10時間07分20秒	32	立教大学	11時間00分00秒
3	日本体育大学	10時間07分37秒	33	芝浦工業大学	11時間07分00秒
4	順天堂大学	10時間07分58秒	34	埼玉大学	11時間07分01秒
5	神奈川大学	10時間08分01秒	35	東京理科大学	11時間19分50秒
6	拓殖大学	10時間08分36秒	36	学習院大学	11時間21分13秒
7	法政大学	10時間11分03秒	37	東京学芸大学	11時間22分04秒
8	中央大学	10時間11分32秒	38	千葉大学	11時間23分08秒
9	東京国際大学	10時間11分41秒	39	東京工業大学	11時間24分34秒
10	上武大学	10時間12分04秒	40	国際武道大学	11時間25分45秒
11	国土館大学	10時間12分14秒	41	東京大学大学院	11時間30分15秒
12	東京農業大学	10時間12分57秒	42	横浜国立大学	11時間31分04秒
13	國學院大學	10時間13分28秒	43	一橋大学	11時間31分13秒
14	創価大学	10時間14分13秒	44	高崎経済大学	11時間37分14秒
15	専修大学	10時間16分29秒	45	首都大学東京	11時間40分51秒
16	亜細亜大学	10時間18分48秒	46	防衛大学校	11時間40分56秒
17	平成国際大学	10時間20分37秒	47	上智大学	11時間43分38秒
18	麗澤大学	10時間21分10秒	48	帝京平成大学	12時間02分33秒
19	駿河台大学	10時間28分30秒		東京農工大学	記録なし
20	流通経済大学	10時間31分20秒			
21	日本薬科大学	10時間36分38秒			
22	筑波大学	10時間36分58秒			
23	関東学院大学	10時間36分59秒			
24	武蔵野学院大学	10時間42分33秒			
25	東京経済大学	10時間47分01秒			
26	東京情報大学	10時間48分47秒			
27	松蔭大学	10時間49分50秒			
28	明治学院大学	10時間50分40秒			
29	東京大学	10時間52分13秒			
☆ 30	桜美林大学	10時間54分45秒			

表2 本学選手の成績

	個人順位	名前	5 km	10km	15km	20km	失速率(%)
1	242	田部 幹也	15.40	31.34	47.34	63.24(PB)	1.1
		(健福1年)		15.54	16.00	15.50	
2	244	小高 真基	15.39	31.34	47.31	63.29(PB)	2.0
		(健福2年)		15.55	15.57	15.58	
3	261	平野 秀一	15.39	31.34	47.30	63.48(PB)	4.2
		(BM1年)		15.55	15.56	16.18	
4	277	森 駿太	15.45	31.37	47.25	64.10(PB)	6.3
		(健福1年)		15.52	15.48	16.45	
5	337	森山 隆秀	16.16	32.27	48.40	65.27(PB)	3.2
		(健福2年)		16.11	16.13	16.47	
6	373	安西 亮介	16.16	33.07	49.39	66.22(PB)	2.8
		(BM1年)		16.51	16.32	16.43	
7	374	嶋津 颯太	16.17	32.45	49.28	66.25(PB)	4.1
		(健福1年)		16.28	16.43	16.57	
8	391	石川 純平	15.45	32.32	49.02	66.52(PB)	18.0
		(LA2年)		16.20	16.57	17.50	
9	399	南 裕也	15.51	32.31	49.29	67.03	10.8
		(健福2年)		16.31	17.07	17.34	
10	424	和田 海希	16.17	33.16	50.27	67.45	6.2
		(健福2年)		16.59	17.11	17.18	
11	438	萬上 和海	16.16	33.07	50.28	68.10(PB)	8.8
		(LA2年)		16.51	17.21	17.42	
12	482	富田 寛治	16.18	33.49	51.40	69.36(PB)	10.0
		(健福2年)		17.31	17.51	17.56	
上位10名の失速率						A v.	5.9
						S.D.	5.1

(上段：トータルタイム、下段：5 km毎のラップタイム)
(PB)：自己新記録

【本学のレース分析】

本学は集団走の第1グループが3名(小高, 田部, 平野), 第2グループが6名(富田, 萬上, 森山, 和田, 安西, 嶋津), 単独走が3名(石川, 南, 森)でスタートした(図1).

第1グループはスタートから15kmまで安定したペースでまとまっていた. 15km過ぎから田部はペースアップしチームトップでゴール. 小高はペースを維持し平野はペースダウンしてゴールした. 失速率から見ても田部(1.1%), 小高(2.0%)は成功レースであった.

第2グループも5 kmまでは集団で推移したが, その後バラバラになり集団走の利点を使えなかった. その中で森山が15kmまで安定したペースで走り失速率3.2%であった. 安西は失速率2.8%で走ったが, 5~10km35秒落とし, 10~15km19秒上げる不安定なペースであったためペースを安定していればもっとタイムを縮める可能性があった. 他の選手につ

いては20kmという距離に対応できず距離とともに失速していった。

単独走の森は10kmからペースアップするも15km後からの大きくペースダウン（失速率6.3%）したことから10km手前で追いついた第1グループと一緒にいった方が良かったと推測される。石川は失速率18%、南10.8%は完全な失敗レースとなり大きくタイムロスをした。結果的には入りの5kmをゆっくり入る第2グループからのスタートの方が良かったと推測される。

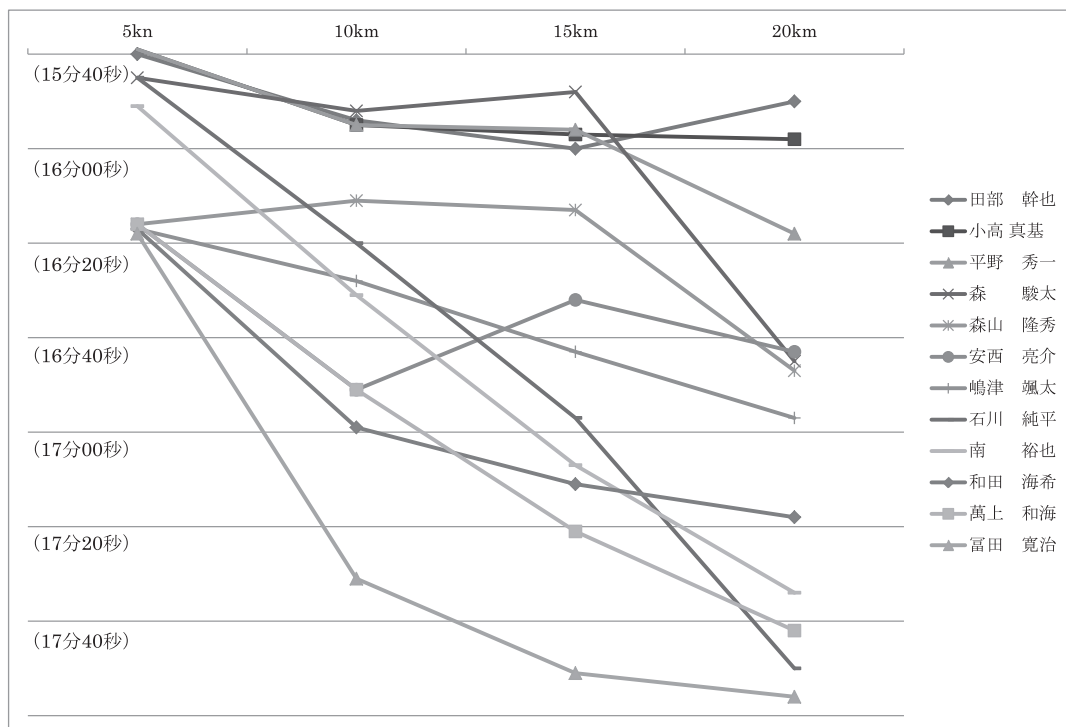


図1 本学選手のレースの推移 (2015.10.17)

【上位で通過した主なチームのレースパターン】

上位通過したチームの中で失速率の低いレースパターンを3つに分類した(図2)。

- ① 「なだらか低下型」 1位で通過した日本大学のチームラップはスタート～5kmと15～20kmのタイムの差は13秒9でなだらかにタイムが移行していた。失速率も1.5%であり会心のレース展開であった。2位に入った帝京大学(失速率2.0%)も同様である。
- ② 「前半余裕後半型」 3位の日本体育大学は5kmの通過は15位であったが10km後からペースアップし失速率0.4%で最後の5kmではトップタイムでゴールした。このことから前半は力を温存して10kmからもう一度スタートするようなイメージで走っていたことが推測される。
- ③ 「前半イーブン後半なだらか低下型」 5位通過の神奈川大学は入りの5kmを余裕もっ

て入り10kmまでほぼイーブン走をする安定した走りであった。失速率1.6%であった。

なお、4位に入った順天堂大学は前半からハイペース（入りの5km14分55秒）で入り後半大きくペースダウン（ラスト5km15分29秒，失速率3.8%）したレースであった。中央大学（8位，ラスト5km15分37秒，失速率4.6%）も同様であった。もし、後半気温が上がりコンディションが悪くなっていたら中央大学は予選落ちしていた可能性もあったと推測される。

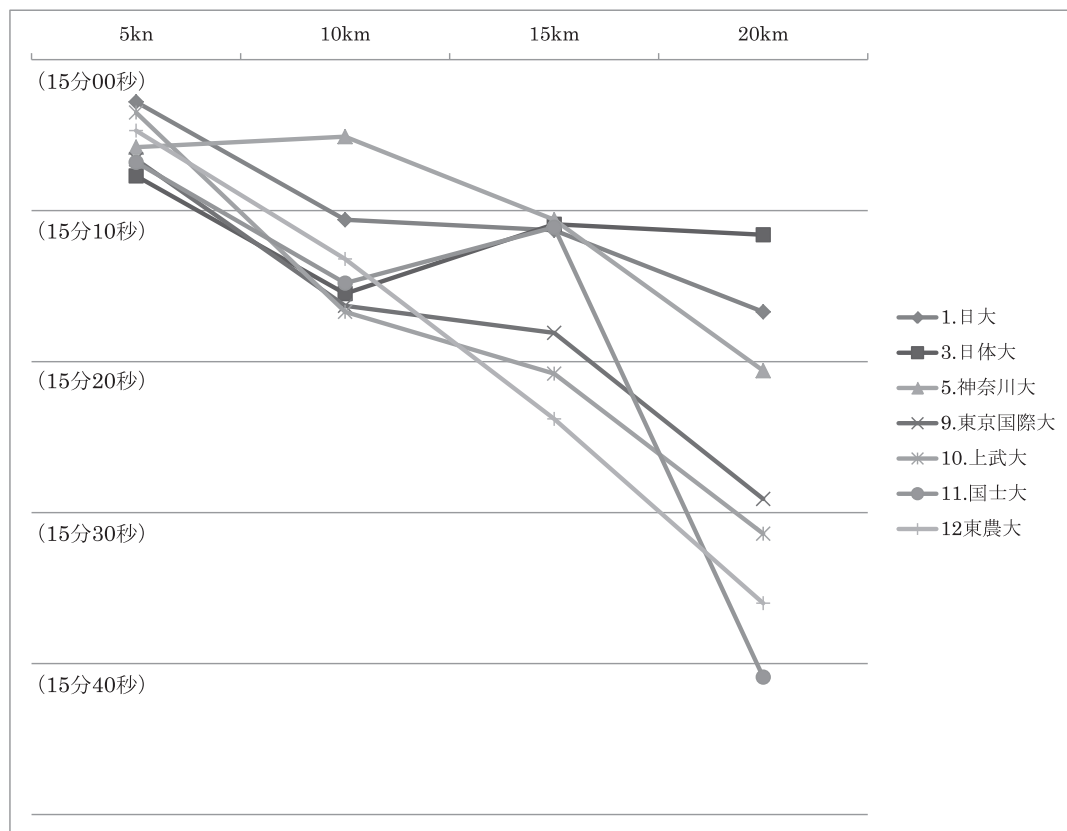


図2 上位校と当落線上校のレースの推移 (2015.10.17)

【予選会通過ライン前後の大学のレース分析】

9位の東京国際大学から12位の東京農業大学の差は1分16秒で一人あたり7秒6という大接戦であった。4校の5kmごとの順位は東京国際大学(13位→13位→12位→9位)，上武大学(8位→10位→11位→10位)，国士館大学(14位→12位→7位→11位)，東京農業大学(9位→7位→13位→12位)であった。

当落を分けた一要因にレースメイキングが関わっている(図2)。スタートして4校ほとんどタイム差がなく10kmまでなだらかにペースダウンしている。そして、10km過ぎから各チームのタイム差が開きだした。10km時点で7位と先行していた東京農業大学が15km

(13位)で脱落するとそのまま失速。国士館大学は逆に10km～15kmをペースアップし順位を上げるがその反動で15km～20kmは大幅ペースダウン。失速率3.8%（表3）はタイムで表すと15分6秒から15分40秒となりペースアップが裏目と出てしまった。東京国際大学と上武大学は10km～15kmのペースダウンを抑えなだらかに低下してゴール。結果としては、10km以降粘れなかった東京農業大学と途中ペースアップしラスト失速した国士館大学が僅差で出場権を取得できなかった。

今大会における当落線上の大学については昨年同様ペースを安定させてコントロールしたチームが予選会を通過し、ペースをコントロールできなかったチームが落選していた。一般的にレース中のペースの上げ下げは体力と気力を消耗しタイムが出にくい。そのため予選会を通過するための条件の一つにペースのコントロール能力があげられる。チーム力が均衡する中で如何に持てる力を発揮するかはこのペースコントロールがカギとなる。特に昭和記念公園に入ってからの上りダウン（ラスト5km）による失速を考えると15kmまでペースをコントロールし余裕をもって行くことが大きなポイントとなると考えられる。特に10kmから15kmの区間でのペースアップは力がない選手には大きなリスクを伴うことになることが示唆された。

ちなみに昨年10位の創価大学は今回10km～15kmをペースアップしラストの5kmを失速して14位であった。失速率は昨年0.9%が今回は2.1%であった。

表3 上位15位大学の失速率

	総合順位	大学名	失速率 (%)	タイム (秒)
1	3	日本体育大学	0.4	3.9
2	1	日本大学	1.5	13.9
3	5	神奈川大学	1.6	14.8
4	2	帝京大学	2.0	17.9
5	14	創価大学	2.1	18.9
6	9	東京国際大学	2.5	22.5
7	6	拓殖大学	2.7	24.1
8	7	法政大学	3.0	27.3
9	10	上武大学	3.1	27.9
10	12	東京農業大学	3.5	31.3
11	11	国士館大学	3.8	34.1
12	4	順天堂大学	3.8	34.4
13	13	国学院大学	4.2	38.1
14	8	中央大学	4.6	41.5
15	15	専修大学	5.2	46.8
		Av.	2.9	26.5
		S.D.	1.3	11.6
	30	桜美林大学	8.8	51.5

タイム (秒) : (15-20kmのタイム) - (0-5kmのタイム)

【本学の今後の指針】

以上のことから本学は20kmを走り切る基礎的走力の不足とペースを安定させるペースコントロール能力が大きく劣ることがわかる。しかし、今大会で失速率の低い選手(田部, 小高)がチーム上位で走ったこと、関東IC^{注3)}のハーフマラソンの標準記録(64分00秒)を突破したものが3名(田部, 小高, 平野)出たこと、10名(12名中)が自己新記録を更新したことは明るい材料となった。2年連続で走った選手6人の失速率については、小高(5.7%→2.0%), 森山(5.9%→3.2%), 和田(8.4%→6.2%), 萬上(13.7%→8.8%), 富田(11.4%→10.0%)と南(5.4%→10.8%)以外改善された。

今後はしっかりと基礎的走力をつけるための走り込みと後半ペースアップし失速率を抑える走力が必要となってくる。具体的な指標としては20kmにおける失速率3.0%以内、15~20kmを15分30秒以内で走る必要がある。

注3) 関東学生陸上競技対校選手権大会

箱根駅伝予選会を通過するための条件

【歴史】

戦後直後^{注4)}は箱根駅伝の参加校が少なかったため予選会は開催されなかった。そこで参加予定校により事前の大会として第1回関東学生10マイル大会(1946年)が行われた。その後、参加校が増えたため第10回関東学生10マイル大会(1955年)を予選会として行い第32回箱根駅伝予選会と名称がついた。その後、会場は転々とし23年間会場になっていた大井埠頭(1977年~1999年)から第77回大会(2000年)現在の昭和記念公園に移った(表4)。

注4) 戦後最初の開催は昭和22年(1947年1月4~5日)に第23回大会が開催され10校の参加であった。明治大学, 中央大学, 慶應義塾大学, 早稲田大学, 専修大学, 日本大学, 東京文理科大学(現, 筑波大学), 神奈川青年師範学校(現, 横浜国立大学), 東京体育専門学校(現, 筑波大学), 法政大学(以上順位順)。スタートは東京有楽町読売新聞社(旧報知新聞社)前, ゴールは箱根郵便局前であった。

【予選会通過記録の条件】

昭和記念公園で開催されてからも記念大会などにより予選通過校の数(6~13校)は変化しているが現在は10校である。過去の10位で最も速いタイムは今大会で上武大学が記録した10時間12分04秒であり一人平均61分12秒1であった(表4)。このタイムは5kmを15分18秒1平均で走破することである。予選会を通過するためにはこのタイムが目標タイムとなる(表5)。このタイムを見すえて練習計画を立案する必要がある。

表4 予選会が国営昭和記念公園で開催されてからの記録の推移

大会	年	1位	10位	20位	本学	1位	10位	20位	出場校数
第77回	2000	10時間23分14秒	10時間36分04秒	11時間24分50秒	-	大東文化大学	国士舘大学	青山学院大学	30
第78回	2001	10時間07分45秒	10時間18分43秒	11時間03分57秒	-	早稲田大学	国学院大学	国際武道大学	34
第79回	2002	10時間10分20秒	10時間25分29秒	10時間55分51秒	-	東海大学	専修大学	流通経済大学	34
第80回	2003	8時間37分50秒	8時間44分25秒	9時間24分30秒	-	法政大学	拓殖大学	国際武道大学	37
第81回	2004	10時間09分07秒	10時間13分55秒	10時間44分44秒	-	早稲田大学	東京農業大学	慶應義塾大学	36
第82回	2005	10時間10分17秒	10時間19分41秒	10時間53分34秒	-	東海大学	拓殖大学	国際武道大学	39
第83回	2006	10時間06分53秒	10時間16分58秒	10時間51分30秒	-	早稲田大学	拓殖大学	立教大学	44
第84回	2007	10時間10分49秒	10時間16分38秒	10時間45分43秒	-	中央学院大学	法政大学	松陰大学	42
第85回	2008	10時間13分20秒	10時間21分01秒	10時間42分08秒	-	城西大学	大東文化大学	麗澤大学	45
第86回	2009	10時間03分39秒	10時間15分40秒	10時間30分32秒	-	駒澤大学	亜細亜大学	関東学院大学	47
第87回	2010	10時間11分39秒	10時間27分35秒	10時間50分19秒	-	拓殖大学	法政大学	関東学院大学	36
第88回	2011	10時間12分08秒	10時間19分39秒	10時間45分00秒	-	上武大学	順天堂大学	関東学院大学	40
第89回	2012	10時間04分47秒	10時間15分28秒	10時間39分42秒	-	日本体育大学	拓殖大学	松陰大学	45
第90回	2013	10時間04分35秒	10時間12分29秒	10時間31分23秒	-	東京農業大学	城西大学	麗澤大学	44
第91回	2014	10時間07分11秒	10時間14分03秒	10時間35分49秒	11時間06分06秒(29位)	神奈川大学	創価大学	亜細亜大学	48
第92回	2015	10時間06分00秒	10時間12分04秒	10時間31分20秒	10時間54分45秒(30位)	日本大学	上武大学	流通経済大学	49

注1) 第77回大会(2000)から第82回大会(2005)は国営昭和記念公園周回(20km)で開催

注2) 第83回大会(2005)からは陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街地～国営昭和記念公園(20km)で開催

注3) 第80回大会(2003)は箱根町芦ノ湖(16.3km)で開催

表5 予選会での最高タイムの平均値(目標タイム)

	1位	10位	20位	2015本学
チーム成績	10時間03分39秒	10時間12分04秒	10時間30分32秒	10時間54分45秒
20km	60分21秒9	61分12秒4	63分03秒2	65分28秒5
5kmの平均タイム	15分05秒5	15分18秒1	15分45秒8	16分22秒0
	駒沢大学(第86回)	上武大学(第92回)	関東学院大学(第86回)	

2015年10月予選会後から2016年10月予選会までの取り組み

10月17日, 第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(30位)桜美林大学新記録.

10月30日～11月2日, 千葉合宿(生命の森リゾート, 千葉市昭和の森公園).

11月7日, 十大学対校陸上競技大会(八王子市立上柚木公園陸上競技場).

12月21日, 全国高等学校駅伝競走大会(リクルーティング)

12月25日～31日, 寮合宿

12月31日～1月7日, 解散

1月2日～3日, 第92回東京箱根間往復大学駅伝競走補助員

2月16日～22日, 千葉合宿(生命の森リゾート, 千葉市昭和の森公園)

2月18日～2月22日, 伊豆高原合宿(桜美林学園伊豆高原クラブ)

3月16日～3月22日, 伊豆稲取合宿(伊豆稲取スポーツヴィラ, 東伊豆町クロスカントリーコース)

3月20日, 春の高校伊那駅伝2016 (リクルーティング)
3月26日, スポーツ活動支援金寄付者に対する報告会 (謝礼の会)
4月2日, 第25回金栗記念選抜陸上中長距離熊本大会 (リクルーティング)
4月7日, 陸上競技マガジン社より取材 (桜美林大 飛躍の3年目へ, 6月号掲載)
4月23日~24日, 第64回兵庫リレーカーニバル (リクルーティング)
4月29日, 第50回織田幹雄記念国際陸上競技大会 (リクルーティング)
4月30日~5日, 富士見高原合宿 (ジュネス八ヶ岳, クロスカントリーコース)
5月7日, ゴールデンゲームスinのべおか (リクルーティング)
5月19日~22日, 第95回関東学生陸上競技対校選手権大会 (日産スタジアム, 6名エン
トリー)
5月中旬~8月初旬, (県・地区・全国) 高校総体 (リクルーティング)
7月15日, 武相マラソンを支援する会参加
7月16日~7月18日, 伊豆高原合宿 (桜美林学園伊豆高原クラブ)
7月17日, 八大学対校陸上競技大会 (八王子市立上柚木公園陸上競技場, 本学が当番校)
7月24日, 境川クリーンアップ作戦に参加
7月29日~8月2日, 全国高校総体 (岡山) (リクルーティング)
8月6日~11日, 選手帰省
8月15日~18日, 1年生, 山梨学院大学の合宿に参加 (長野県野辺山高原)
8月16日~22日, 駒澤大学の合宿に参加 (長野県野尻湖)
8月16日~8月22日, 富士見高原合宿 (ジュネス八ヶ岳, クロスカントリーコース)
8月22日~8月28日, 車山高原合宿 (霧ヶ峰陸上競技場, クロスカントリーコース)
8月28日~9月4日, 富士見高原合宿 (ジュネス八ヶ岳, クロスカントリーコース)
8月29日, 週刊朝日MOOK「大学の力」特集「スポーツと建学の精神」の取材
9月2日~3日, 天皇賜杯第85回日本学生陸上競技対校選手権大会 (熊谷, 1名エン
トリー)
9月12日~18日, 菅平高原合宿 (菅平高原陸上競技場)
10月15日, 箱根駅伝予選会出場 (日本テレビで地上波生中継)

* 定期的な活動

毎週1回: 選手ミーティング

毎月1回: 個人面接 (指導スタッフによる練習指導, TAMAYO氏による栄養指導)

おわりに

2013年4月から始まった駅伝プロジェクトの箱根駅伝への挑戦は2回目を終えた。チーム成績として順位は残念ながら1つ下げ30位であったがタイムを11分21秒更新したことは

1年間の成長のあかしである。

当日は多くの学生、教職員、卒業生、近隣の方が応援にかけつけその数は500人以上であった。このプロジェクトの目的「大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）」は、今回の予選会の盛り上がりから貢献できたと考える。しかし、大切なことはこの雰囲気が続けていくことであり、そのためにはチームがさらに強くなり夢の箱根駅伝出場を目指す過程が大切であるとする。2015年の予選会通過記録は10時間12分04秒（10位上武大学）である。このタイムは予選会10位の記録として過去最高記録であり、今後ますますレベルアップされることが予想される。その厳しい中で、まずは桜美林らしい指導による現有選手の育成を第一に、加えリクルーティングの強化、練習環境の整備、情報の発信、サポーターのさらなる確保など多くの課題を一つ一つ整えていく必要がある。

最後に、この駅伝プロジェクトを支援いただいております学園関係者の方々、市民の皆様にご感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 武田一：清水安三と体育・スポーツ、桜美林論考「自然科学・総合科学研究」第4号、1-13、(2012)
- 2) 武田一：本学駅伝プロジェクトの取り組み、桜美林論考「自然科学・総合科学研究」第5号、95-111、(2013)
- 3) 武田一：本学駅伝プロジェクトの取り組み（新チームの発足）、桜美林論考「自然科学・総合科学研究」第6号、15-27、(2014)
- 4) 武田一：本学駅伝プロジェクトについての研究（第1報）（第92回箱根駅伝競走予選会のレース分析から）、桜美林論考「自然科学・総合科学研究」第7号、61-72、(2015)
- 5) 花田勝彦：上武大学駅伝部 箱根駅伝までの歩み、上武大学ビジネス情報部紀要第8巻第1号、1-7、(2009)
- 6) 廣津信義・中村明・金子今朝秋、箱根駅伝予選会での予選通過に関する確率計算、経営の科学、57巻1号、5-10、(2010)
- 7) 箱根駅伝歴史シリーズ【第1巻】激闘の予選会史、ベースボールマガジン社、104-130 (2012)
- 8) 陸上競技マガジン2014年15月号、ベースボールマガジン社、10-19 (2015)
- 9) 「第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会」要項、関東学生陸上競技連盟、http://www.kgrr.org/event/2015/kgrr/92hakone_yosenkai/92guideline.pdf (2016.9.9アクセス)
- 10) 「第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会」総合結果、関東学生陸上競技連盟、http://www.kgrr.org/event/2015/kgrr/92hakone_yosenkai/sougou-r.pdf (2016.9.9アクセス)
- 11) 「第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会」チーム成績、関東学生陸上競技連盟、http://www.kgrr.org/event/2015/kgrr/92hakone_yosenkai/team-r.pdf (2016.9.9アクセス)
- 12) 「第92回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会」個人成績、関東学生陸上競技連盟、http://www.kgrr.org/event/2015/kgrr/92hakone_yosenkai/kojin-r.pdf (2016.9.9アクセス)

要約

3年目を迎えた本学駅伝プロジェクトは「大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す (ONE TEAM)」ことをミッションとし箱根駅伝へ挑戦している。2回目の出場となる本学の成績は30位であった。前回、1年生のみで初出場した29位（出場48校）から1つ順位を下げたが、今大会は留学生が不出場の中、チーム記録（10時間54分45秒）を11分21秒更新した。しかし、予選会通過ラインの10位はまだほど遠く個人の平均タイム差は4分16秒もある。

本学が箱根駅伝に出場するため方策を考察することを目的に第92回大会のレース分析をおこなった。今大会における当落線上の大学についてはペースを安定させてコントロールしたチームが予選会を通過し、ペースをコントロールできなかったチームが落選していた。また、本学は失速率が高いため20kmを走り切る基礎的走力を上げることとペースを安定させるペースコントロール能力をみがくことが必要であることを再認識した。